

第 68 回 軟式野球競技実施要項

1. 競技種目

軟式野球競技とする。

2. 競技規則

大会開催年度の公認野球規則および(公益財団)全日本軟式野球連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項による。

3. 出場資格

- (1) チームは加盟団体単位とし、ブロックごとの出場枠を下記のとおりにする。北海道・東北1、関東2、北信越2、東海2、近畿2、中国・四国1、九州1、開催地1、計 12 チーム以内になるものとする。
- (2) 当大会へ出場できるチームはブロック予選大会の優勝・準優勝チームを基本とする。なお、メンバーはブロック予選大会と同じ者とする。
- (3) 当大会出場の際に1チーム4名までの補強を認める。ただし、同一ブロックに限る。
- (4) ブロック大会の優勝・準優勝チームが加盟団体単独チームでなく、2つ以上の加盟団体で編成した連合チームの場合、連合であることが明確なチーム名をつけなければならない。またユニフォームを統一しなければならない。
- (5) ブロック大会の優勝・準優勝チームが当大会に出場できない場合は、当該ブロックの協議により、代替チームが出場できる。但し、代替チームに関する責任は代替チームを選出した当該ブロックが全て負う。

4. チームの編成

- (1) 1チームの編成は、監督を含む選手 20 名以内とする。
- (2) コーチまたはマネージャー、スコアラーが選手として出場することはできるが、選手として出場する場合は、20 名の範囲内で登録しなければならない。
- (3) 監督の背番号は 30 番、主将の背番号は 10 番とする。選手は 0 番から 99 番とする。

5. 競技方法

- (1) 全試合トーナメント方式による。
- (2) 試合は7回戦とし、正式試合となる回数を5回とする。但し、試合時間は2時間までとし、最低5回までとする。
- (3) 得点差によるコールドゲームを採用する。
- (4) 得点差によるコールドゲームは、5回以降7点差が生じた場合とする。
- (5) 7回を終わって同点は、次項の特別ルール(決勝戦も同様)による延長戦を1回実施する。

【特別ルール】

- 継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁・3塁の走者は、順次前の打者(投手を含む)として、1死満塁の状況により1イニング行ない得点の多いチームを勝者とする。
- (6) 特別ルールによる延長戦を実施しても勝敗が決しない場合は、抽選により勝敗を決定する。
 - (7) 決勝戦の場合、下記事項にて実施する。
 - ① 得点差および時間制限によるコールドゲームを採用しない。
 - ② 7回戦とし、7回を終わっても同点の場合は、9回まで延長戦を行う。

- ③延長戦でも勝敗が決しない場合は、特別ルールによる特別延長戦を実施する。(この場合、原則として勝敗が決するまで特別延長戦を繰り返すものとする。)
- (8) 競技会において、雨天等の事情により大会日程等を縮小する必要がある場合は、大会役員・審判団・該当チーム監督等の協議により運営実施するものとする。
- (9) 大会の使用球は、(公益財団)全日本軟式野球連盟公認M号ボールとし、ボールのメーカーについては主管団体において決定する。
- (10) 前の試合がコールドゲームで早く終わった場合は繰り上げることもある。ただし、各チームの許可を得る。

6. 用具等

- (1) 競技に使用する用具については、(公益財団)全日本軟式野球連盟競技規則に定められたものとする。なお、打者および走者、ベースコーチは、ヘルメットを着用しなければならない。また、守備中の捕手は、プロテクター、ヘルメットおよびレガースを着用しなければならない。
- (2) 顎ガードつきヘルメットについては、SGマーク付きが条件で販売されている物は認める。改造・加工された物は認めない。

7. 打順表(オーダー表)提出について

- (1) 第1試合の場合は、試合開始予定時間の 30 分前に主将が提出する。この場合、原本と照合の後、審判員立会いのもとに攻守の決定を行う。
- (2) 第2試合以降は、前の試合の4回終了時に主将が提出し攻守の決定を行う。
- (3) その日の試合が、W ヘッダー(前の試合終了後 30 分前で試合開始)となる場合の第2試合については、本部の指示により提出する。
- (4) 打順表の用紙(5部複写)は、監督・主将等合同会議で配布するので、事前に受領する。
- (5) 打順表の選手については、必ずフリガナをつけること。

8. 抗議について

試合中に、抗議が出来る者は、監督または主将・当該プレイヤーのうちの1名とする。

9. 監督主将会議

- (1) 監督主将会議において、大会の組合せ抽選会を行う。
- (2) 組合せ抽選会における本抽選のくじ引き順を決定する予備抽選を引く順番は、同会場での出席受付順に行う。
- (3) 準決勝までは、そのブロックに属するチーム同士の対戦は行わない。
- (4) 3の出場資格によって推薦されたチームは、1回戦からそのチームの属するブロックのチームと対戦を行なわない。

10. 表彰

- (1) 表彰式は、決勝戦終了後、閉会式にて行う。
- (2) 個人表彰は、最高殊勲選手賞・最優秀投手賞・最優秀打者賞・敢闘賞とする。最優秀打者賞は、ベスト3チームの全試合を選考基準対象とし、規定打席(各チームの試合数×2.5 打席以上)を設けて最高打率によるものとする。

11. 開会式、始球式について

開会式は実施しないが、状況により始球式を実施する場合があるので、チームは会場本部の指示に従うこと。

12. 雨天の場合の連絡等について

- (1) 雨天でも試合を行う場合がある。また、午前中は試合を見合わせて、午後から行うこともある

ので、大会本部からの連絡に注意すること。なお、当日試合不可能な場合は、大会本部より各チームへ連絡する。

13. その他

- (1) 試合中ベンチに入ることのできる者は、指定された大会係員および登録された監督・選手 20名とチーム代表者1名・スコアラー1名・マネージャー1名とする。
- (2) 試合開始予定時刻の 40 分前までには会場に到着し、会場本部席に到着の報告を行うこと。なお、集合時刻に遅れたチームは、原則として棄権とみなす。試合開始予定時刻より早くゲームを行える場合も考えられるので、十分余裕を持って行動すること。
- (3) ベンチは、組合せ番号の若いチームを1塁側とする。
- (4) ゲーム前の公式練習(シートノック・フィールディング)は5分間とする。但し、天候・時間の状況等により中止または短縮する場合がある。ノッカーも選手と同様のユニフォームを着用のこと。
- (5) 実行委員会は、大会参加申込締切直後の参加チームが 12 チームに満たない場合、すぐ一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会事務局にその旨を伝えること。

14. 本要項改正

- ・ 一部改正 2004 年2月 22 日 第6回全国委員会
- ・ 一部改正 2006 年2月 19 日 第8回全国委員会
- ・ 一部改正 2007 年3月 9日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2009 年2月 8日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2010 年2月 7日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2011 年2月 6日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2012 年2月 5日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2015 年2月 8日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2016 年2月 6日 第3回スポーツ委員会
- ・ 一部改正 2018 年2月 9日 第3回スポーツ委員会
- ・ 一部改正 2019 年2月 2日 第3回スポーツ委員会
- ・ 一部改正 2020 年1月 31 日 第3回スポーツ委員会
- ・ 一部改正 2021 年1月 30 日 第2回スポーツ委員会
- ・ 一部改正 2022 年5月 17 日 臨時スポーツ委員会

【申合せ事項】

熱中症対策

9月、厳しい暑さが予想され、試合中に熱中症の心配がある。対策としては4回裏終了時グラウンド整備をするとともに水分補給と休憩時間を設ける。

①曇空で気温が高くない場合、4回裏グラウンド整備、水分補給後、試合再開。

②晴れて気温が高い場合、4回裏グラウンド整備後、水分補給、休憩5分。

③暑さ指数アラート発令の場合、4回裏グラウンド整備後、水分補給、休憩8分。

雷雨対策

審判の判断とする。

音と光がなった時、試合は一時中断とする。20～30分中断後に、審判の確認の上、再開とする。

中断した場合、試合時間の延長を認める。